

【EMD.GR.JP 掲載のニュース】 (9月9日～10月4日分)

米 Stealth Media Labs、デジタルオーディオ信号にデータを埋め込む技術を発表

米 Stealth Media Labs は、デジタルオーディオ信号にも最大 20K ビットのデータを埋め込むことができる技術「StealthChannel」を発表した。

この技術は、University of Miami の研究者らが開発したもので、Microsoft Windows Media と互換性を持っている。

ユーザーが CD をエンコードしようとすると、著作権所有者の設定に従い、イメージ、テキストからクレジットカード番号までどのようなデータでも埋め込むことができる。

また、データを埋め込んでもファイル・サイズはほとんど変わらない。

これにより、ユーザーはエンコードした楽曲ファイルを共有しようとはしなくなるとしている。また、逆に著作権所有者側が電子クーポンなどの特典を付けることで楽曲ファイルの価値を向上させることもできるとしている。

NASDAQ に上場したばかりの Stealth Media Labs は、現在 Windows Media Player 9 シリーズに対応する「StealthChannel」デコーダ・プラグインを作成している。

(10/4)

ケンウッド、独自オーディオフォーマット「KSF」対応の HDD カーナビを発表

ケンウッドは、独自圧縮フォーマット「KSF」に対応した HDD カーナビゲーションシステム 3 モデルを 10 月中旬より発売すると発表した。

セコムのセキュリティサービス「ココセコム」に対応可能な「HDZ-2500 シリーズ」2 モデルと、独自のメカ機構「Zactionmecha」を搭載した 1DN/TV モニタータイプの「HDX-700」が用意される。

すべてのモデルで 16GB ハードディスク

ドライブを搭載。航空写真地図(スカイクルーズビュー)などリアルさ、見易さ、分かりやすさを実現した地図表示機能を搭載している。

同時にハードディスクドライブにはユーザー・カスタマイズが可能な領域を設定し、ユーザーが自由に編集できる機能を搭載している。

その一つ、Music Cellar 機能では、ケンウッド・オリジナル音楽圧縮フォーマット・KSF(kenwood Sound Format)のアプリケーションを使用して、圧縮された音楽データをパソコンからメモリスティック経由で HDD に転送・保存することができる。ユーザー領域は 2GB。

最初に、HDD ナビに内蔵されるハードディスクドライブに記録されている「KSF 専用アプリケーション」をメモリスティックによって内蔵ハードディスクドライブからコピーパソコンへインストール。

パソコン上で「KSF 専用アプリケーション」を使い、音楽データを作成。

作成した KSF 音楽ファイルを、メモリスティックを使い、パソコンから HDD ナビに転送・保存する。転送した後、メモリスティックには、KSF 音楽ファイルは残らない。

「KSF 専用アプリケーション」はファイル容量約 5.3MB、Windows98SE 以降に対応し、Macintosh では利用できない。

HDZ-2500 シリーズは 7 型 TV モニタをセットにした「HDZ-2570iTS」が 240,000 円、本体のみの「HDZ-2500iS」が 165,000 円。HDX-700 は 250,000 円。

(10/3)

ソニー、プレーヤー機能搭載 PDA の新モデルを発表

ソニーは、Palm OS 5 を搭載した「クリエ」『PEG-NX60』『PEG-NX70V』を発売すると発表した。いずれもオープンブライズ。発売予定日は 2002 年 10 月 19 日。

マジックゲート対応メモリスティックスロットを備え、PC 上で音楽コンテンツを管理する付属ソフトウェア「SonicStage

Ver.1.5」で PC に保存した音楽データを、ATRAC3 方式で「マジックゲート対応メモリスティック」に記録し、クリエ上の「AudioPlayer(ver.3.0)」で再生することができる。

今秋販売予定の「CLIE 用 SonicStage MP3 追加プログラム」(別売)を利用することで、MP3 形式への変換も可能となる。

頭出しや早送りなどの基本機能はもちろん、バックグラウンド再生も実現。好きな音楽を聴きながら、予定表などのソフトを使用可能。

また、画面を切り替えれば、曲をリストで表示し、再生したい曲をダイレクトに選択可能。音質面では、迫力ある重低音を楽しめる「Mega Bass」機能も搭載している。リモコンも付属している。

Palm OS 5 は、Palm OS 4 と互換性を持ち、ワイヤレス通信を標準サポート。通信用カードスロット(コンパクトフラッシュ Type II)を装備し、PHS 通信カードを装着することで、屋外でのメールやインターネットの接続が可能となる。

また、ワイヤレス環境のあるオフィスや自宅、ワイヤレス LAN アクセスポイントが設置されたレストランやホテルなどの施設(ホットスポット)では、ワイヤレス LAN カードの装着により、手軽にネットワーク接続が可能となる。

ディスプレイには、65,536 色対応の 320 × 480 ドットの 3.8 インチ縦型ワイド高解像度 TFT カラー液晶パネルを搭載。『PEG-NX70V』は、本体の回転軸部分に約 31 万画素の 260 度回転式カメラを内蔵しており、液晶画面をファインダーにして撮影することができる。

(10/2)

Yahoo! BB、ADSL・IP 電話・無線 LAN の一体型モデムを提供開始

ソフトバンク・グループで、「Yahoo! BB」のブロードバンド・インフラの提供、管理、技術開発などを行なうビー・ピー・テクノロ

ジーは、世界で初めて ADSL・IP 電話・無線 LAN の 3 機能を兼ね備えた一体型モデム『Yahoo! BB トリオモデム 12M』を新開発したと発表した。

BB テクノロジーとヤフーは、『Yahoo! BB トリオモデム 12M』を中核に、Yahoo! BB と BB フォンのサービスに屋内外の無線 LAN サービスを付加した新サービス『Yahoo! BB 12M+無線 LAN バック』の試験サービスを、新規申し込みユーザー先着 3 万名に 2002 年 10 月 1 日より提供を開始する。

「Yahoo! BB トリオモデム 12M」は 2.4GHz 帯の周波数を活用した無線 LAN 規格 IEEE802.11b に準拠、標準的なルータ機能を搭載し、家庭内のパソコンや PDA など複数の端末で無線 LAN を利用できる。

『Yahoo! BB 12M+無線 LAN バック』の商用サービス時の料金は、現行の下り最大 12M の ADSL 接続サービスとブロードバンド電話「BB フォン」が利用可能な「Yahoo! BB 12M」ADSL サービスの月額固定費用 2,480 円に、無線 LAN 利用料 990 円/月が追加となる。さらに、マクドナルド店舗などで無料試験サービスを実施している無線による高速インターネット接続サービス、『Yahoo! BB モバイル』についても、商用サービス開始後も無料で利用できる予定。

あわせて、無線による高速インターネット接続サービス「Yahoo! BB モバイル」の商用サービス開始時の料金を、既存『Yahoo! BB 8M』、『Yahoo! BB 12M』サービス会員は月額 290 円、Yahoo! BB 会員様以外のユーザーは月額 1,580 円と改めて発表している。

(10/2)

有線ブロード、パワーバンドと業務提携

有線ブロードネットワークス（略称：USEN）とパワーバンドは、集合住宅向けブロードバンドソリューションの相互サービスについて業務提携をしたと発表した。

第一段階として 2002 年 10 月 1 日より USEN、パワーバンドの両社でイーサネット方式及び VDSL 方式の集合住宅向け光ファイバーサービスを販売開始し、同時に両社間の人材交流も始める。

今回の提携により、USEN はパワーバンドがサービス提供中の集合住宅に住んでいるユーザーの要望に応じて VDSL から FTTH 化し、また光ファイバーの入線工事が困難な集合住宅のユーザーには、USEN、パワーバンドの両社でブロードバンドソリューションとして VDSL 方式の集合住宅向け光ファイバーサービスを提供する。

両社では、将来的にはより高速の VDSL サービスの共同研究や開発も同時に進行することで合意している。

(10/1)

米 Liquid Audio、米 Microsoft に特許技術を売却

米 Liquid Audio は、同社が国内外に保有する特許を米 Microsoft に 700 万ドルの現金で譲渡する契約に合意したことを発表した。

これらの中には、著作権管理 (DRM) 技術、PC からポータブルデバイスへセキュアにコンテンツを転送する技術、コンテンツの配信先を地域ごとに制限できる技術などが含まれる。

Liquid Audio は現金 700 万ドルのほか、これらの特許を無償で継続利用できるライセンスを取得する。

これにより、Liquid Audio は Alliance Entertainment との合併を進め、オンライン小売業者向けにデジタルコンテンツを販売することに注力する予定だとしている。

(10/1)

有線ブロード、FTTH 料金を引き下げ

有線ブロードネットワークスは 2002 年 10 月 1 日より、個人宅向け光ファイバー・ブロードバンドサービス「BROAD-GATE 01」の料金改定を行うと発表した。

料金改定に伴いサービス料金体系を見直し、「BROAD-GATE 01 Type E」(ブロードゲート・ゼロワン タイプイー)と名称変更した。

新サービス料金体系では、宅内にメディア

コンバータを置かない集合住宅居住者向け回線収容方法を標準に考え、月額利用料金を 6,100 円から 4,800 円 (ISP 料金込み) に、初期導入費用を 33,000 円から 18,000 円に改訂した。

一戸建て居住者への配線方法 (宅内にメディアコンバータ設置) では別途メディアコンバータレンタル料が月額で必要となる。

また、今回の料金改定から従来含まれていたメールが 300 円のオプションとなる。今まで利用していたプロバイダのメールを継続使用するユーザーはその分安く利用できる。

今回の新サービス料金体系への移行にとともに、30 戸以上のマンション割引プランが新たに用意された。同一マンション内で加入者が増えた場合、月額料金が 4,800 円から最大 1,000 円引きの 3,800 円になる。

(10/1)

NTT Com、「ホットスポット」の提供エリアを拡大

NTT コミュニケーションズ (略称：NTT Com) は、2002 年 5 月より商用提供を開始した無線 LAN サービス「ホットスポット」を、10 月以降、東京 23 区以外のエリアでも提供していくと発表した。

まず、2002 年 10 月から横浜、大阪、札幌の 3 地域への提供エリアの拡大を行い、その後はさいたま、千葉、名古屋、福岡地域などへの展開を順次行う。

札幌地区に関しては、北海道で商用サービス「Air11」を展開しているワイコムと、アクセスポイントの相互乗り入れの商用サービス提供に向け、10 月下旬目途に実証実験を開始する。

今後は、個人コースのサービス拡充を推進するため、NTT Com が提供する各種サービスとの連携を進めるとともに、ソニーのバイオに搭載されているネットワーク切り替えツール「Smart Network」とホットスポット自動ログインツールとの連動など、端末メーカーとの連携による操作性向上も推進していくとしている。

(9/30)

タカラ、「チョコQ」サイズの超小型ポータブルオーディオを開発

タカラは、「マジックゲートメモリスティック Duo (デュオ)」を採用した、超小型メモリスティック音楽プレーヤーを現在開発中と発表した。

その第一弾として、手のひらサイズのミニカー「チョコQ」をデザインに採用した「MチョコQ (ミュージックチョコキュー)」(予価: 19,800 円/税別)を、2003 春より玩具雑貨市場にて全国一斉発売する。

圧縮形式は ATRAC3 を採用し、外部オーディオ機器から直接デジタル録音が可能。リチウムイオンバッテリーを内蔵し、連続 2 時間のデジタル再生ができる。

大きさは約 50 × 30 × 30mm、重さが約 50g。底面には録音・再生・停止・ボリュームなどのボタンが、背面にはメモリスティック Duo 用スロット・入出力端子・AC アダプタ端子が配置されている。

パッケージには「MチョコQ」本体のほか、交換用ボディアが 2 つとヘッドホン、AC アダプタが同梱される。

この製品はソーテックの開発生産協力と、フジミックの企画・プロモーション協力により実現したとしている。

(9/30)

総務省、8 月末のインターネット利用者数を発表

総務省は、2002 年 8 月末の時点でのインターネット接続サービスの利用者数速報を発表した。

いわゆるブロードバンドの利用者数としては、CATV インターネットが 175.8 万人、DSL が 3,915,740 人、FTTH が 99,404 人となっている。

DSL の加入者が前月から 30 万増やし相変わらずブロードバンドの牽引役になっている。一方、CATV インターネットは 4.8 万の増加となり月ごとの浮き沈みが激しい。また、FTTH は前月から 15,000 弱増え、10 万目前

となっている。

(9/30)

ソニー、アイワを吸収合併

ソニーとアイワは、各々の取締役会において、2002 年 12 月 1 日をもって、ソニーがアイワを吸収合併することを決議したと発表した。

2002 年 2 月 28 日、両社は、アイワが一段の経営改革を行うことを前提に、2002 年 10 月 1 日にソニーがアイワを完全子会社化することを発表している。

今回の合併に関する決議は、この完全子会社化の完了を条件とし、合併契約書は 10 月 1 日に締結する予定。

アイワの人員については、正規従業員が 3 月末時点の 1,100 名強から、10 月 1 日時点で、企画/開発/設計の機能を中心として、500 名程度になる見込み。また、国内外の生産および販売体制のソニーのプラットフォームへの統合を進めてきた結果、生産面においては、マレーシアおよびインドネシアの工場の生産を終了し、人員の整理を完了している。

販売体制については、アジア・中近東・米州はすでにソニーの販売会社への販売・サービスの委託をほぼ完了しており、ほとんどの販売子会社は閉鎖の手続きに入っている。日本国内につきましては、すでにソニーマーケティングに販売を委託しており、欧州においても 10 月から同様の委託を実施する予定。

以上のように経営合理化策が計画どおり進んだことから、10 月 1 日の完全子会社化を当初予定どおり実施し、完全に一元化された経営体制となる合併がより効果的であるとの結論に至ったとしている。

今後については、一元化されたエレクトロニクス事業戦略のもと、アイワブランドとソニーブランドそれぞれをより強化していくとしている。

(9/28)

NEC、オーディオ向け高性能マイコン発表

NEC(NEC エレクトロニクス)は、高性能化が著しいカーオーディオ、ホームオーディオなど AV 機器の制御に最適な 32 ビット RISC 型シングルチップ・マイコン 2 種類を製品化したと発表した。

新製品は、現在オーディオ機器用に普及している 16 ビットマイコンに比べて約 3~4 倍高性能な「V850ES」コアを搭載、20MHz もしくは 32MHz 動作による高速処理を実現。

また従来品に比べて約 25%の低消費電力化。さらに最大 ROM:640K バイト、RAM:48K バイトという大容量のメモリを搭載している。

これらにより、MP3 や WMA などの圧縮オーディオフォーマットで必要とされる大容量のファイルシステムデータに対応できる。

バスはカーオーディオ分野などで多様化するユニット間通信機能に対応するため、世界標準となりつつある車内 LAN「CAN」および、従来からオーディオ分野で広く使われている車内 LAN「IEBus」を内蔵している。

ラインナップは、「V850ES/SG2」(100 ピン)、「V850ES/SJ2」(144 ピン)の 2 種類。サンプル出荷を 2003 年 3 月から順次開始予定。

(9/27)

「EZweb」を利用してパソコンのコンテンツが購入可能に

KDDI、沖縄セルラー(au)及びツーカーグループは、2002 年 10 月 1 日から携帯電話のインターネット接続サービス「EZweb」において、パソコンにおけるインターネット用コンテンツを購入できるメニューの追加を行うと発表した。

現在、ユーザーはパソコンからコンテンツをご購入する場合、住所、氏名、クレジットカード番号等を入力するなど複雑な手続きが必要だが、今回のメニュー追加により、「EZweb」を利用しているユーザーであれば「EZweb」上で 4 桁のパスワードを投入するだけでユーザー認証が可能となり、簡便かつ安全にコンテンツを購入することができる。

また、コンテンツプロバイダーにとっては、注目度の高い携帯電話のポータル上でコンテンツの一部を紹介することが可能となると同時に、au 及びツーカーグループの料金回収代行のサービスを利用できるメリットがある。

具体的には、「EZweb」を利用して、音楽・映像・ゲーム・コミュニケーションのカテゴリーからコンテンツを選び、ミュージックリップや映画の予告編等のパソコン関連コンテンツを確認したうえで、パソコンのコンテンツを購入する。

その際コンテンツプロバイダー様から提供される、ユーザーID・パスワードを用い、楽曲ダウンロードや映画本編の視聴等、家庭等のパソコン上でさらにリッチなコンテンツを楽しむことができる。

対象は「EZweb」対応の全携帯電話。
(9/26)

アイビートーク、IP 携帯電話を事業化

アイビートークは、三菱電機が開発した IP 携帯電話技術を使った新しい携帯電話サービス「モバイル IP Talk (モバイルアイビートーク)」の事業化に着手すると発表した。

アイビートークは固定タイプ(家庭向、法人向)のインターネット電話サービス「IP Talk」を提供している三菱電機系のベンチャー企業。

「モバイル IP Talk」は、急速に普及しつつある無線 LAN 基地局や PHS 定額インターネット接続を用いて通話するインターネット電話方式の携帯電話 (IP 携帯電話)。

IP Talk 端末同士であれば、「携帯・携帯間」「固定・携帯間」「固定・固定間」のいずれでも海外での使用も含めた通話料の無料化が可能になる。同方式のソフトを搭載した PDA、PC との間でも同様。

IP Talk 端末以外の一般の固定電話への通話に関しても低価格の通話料が設定できるほか、従来の携帯電話でかかっているメールやウェブアクセスのバケット料が無料とできる。

アイビートークでは、2002 年 10 月から市場調査、実証試験を行い、試験サービスを経て、「モバイル IP Talk」を、第 4 世代携帯電話の有力候補として、既存の携帯電話事業者や、無線 LAN の基地局展開を進めている新興キャリア等に対して、積極的な提案活動を行い、IP 関連インフラ事業者とのパートナーシップ構築を軸とした事業展開により 2003 年度の早期に本格的なサービス開始を目指すとしている。

(9/26)

三菱電機、「IP 携帯電話」を開発

三菱電機は、無線 LAN 等にアクセスできる環境下であればどこでも格安通話が可能となる IP 携帯電話技術を開発したと発表した。

今回開発された「IP 携帯電話」技術は、端末から一定時間ごとに管理サーバにアクセスすることで、これらの問題を解決し、現在、街角やオフィスなどで普及している無線 LAN を利用した音声通話を可能にした。

具体的には、三菱電機の提案した IP 電話の方式、HCAP 方式を採用しており、この方式の IP 電話 (固定・携帯)間では、加入プロバイダ等を問わず、インターネット回線を利用した通話が可能となる。

音声コーデックとしては、G.729 を利用しており、高品質に音声を 8kbps のデジタルデータに圧縮、これにより PHS データ通信カードを利用しての通話も可能です。

今後は、小型 SD カード型の無線 LAN カードや PHS データ通信カードに対応した小型化にも取り組んでいくとしている。

なお、これらの開発成果は三菱電機と三菱電機系通信ベンチャー企業であるアイビートークで事業化される予定。

(9/26)

中部電力、FTTH 事業参入を発表

中部電力は、FTTH 事業へ参入するために、第一種電気通信事業許可を取得、2002 年 11 月 27 日から事業開始を予定していると発表した。

事業開始に当たって、2002 年 10 月 1 日に社内カンパニーとして「ひかりネット・カンパニー」を設置。ブランド名は「commuf@ (コミュファ)」とした。

サービスは最大 100Mbps のベストエフォート型。インターネット接続事業 (ISP) を含めたサービスを提供する。

サービスエリアは名古屋市内から開始となり、サービス料金は一般家庭向け (戸建て) で月額 6,500 円を予定している。

2002 年 11 月 1 日より事前申込の受付を開始し、11 月 27 日より事業を開始する。

(9/25)

「ホットスポット」と「無線 LAN 倶楽部トライアル」のアクセスポイント相互乗り入れ実験を発表

NTT コミュニケーションズ (略称: NTT Com)、NTT ブロードバンドプラットフォーム (略称: NTT-BP) は、無線 LAN インターネット接続サービス (NTT Com:「ホットスポット」、NTT-BP:「無線 LAN 倶楽部」トライアル) について 2002 年 10 月 7 日 (月) よりアクセスポイント相互乗り入れの共同実験を行うと発表した。

それぞれのアクセスポイントをそれぞれのサービスのご契約者が利用できるようにする今回の実験は、技術実証および利用実態調査を目的に行われる。

実験期間は 10 月 7 日から約 1 ヶ月の予定。「ホットスポット」もしくは「無線 LAN 倶楽部」に加入しているユーザーを対象に、それぞれ 20 名程度のモニタを募集する予定。

なお、アクセスポイントは「ホットスポット」側が CAFE364JOURS 銀座 7 丁目店、「無線 LAN 倶楽部」側が実験提供している全てのアクセスポイントとなっている。

(9/25)

ケイ・オプティコム、ホットスポットの実証実験サービスを発表

ケイ・オプティコムは、2002 年 10 月 1 日

(予定)より高速無線インターネット接続サービス「eo(イオ)スポット」の実証実験サービスを実施すると発表した。

「eoスポット」は、2.4GHz帯および5GHzの周波数を活用した無線LAN方式でサービスエリアとなっているカフェ等からケイ・オプティコムが光ファイバーネットワークに接続し高速インターネット接続を提供する。

導入されるのはドトールコーヒーが運営するエスプレッソ・カフェ「エクセルシオールカフェ」の京阪神の店舗他。

実証実験サービス実施期間は2002年10月1日(火)から2003年3月31日(月)までを予定しており、この間は無料で利用できる。(9/24)

Warner Music Group、RioPortの音楽配信インフラに楽曲提供を開始

Warner Music Groupは、RioPortのデジタルコンテンツ流通インフラを介して、30,000曲を超える楽曲の音楽配信を開始すると発表した。

RioPortはMusic Application Service Providerとして機能し、実際の楽曲はRioPortと契約しているBestBuy.com、MTV.com、SonicBlue.com、HP.comといったサイトで販売される。

ダウンロードした楽曲ファイルはPC上で再生したり、CD-Rに焼いたり、セキュアなポータブルプレーヤーに転送して再生することができる。

サービスはアメリカ合衆国およびカナダにて2002年9月末から開始。価格は各99セント。(9/24)

NTTコムウェア、次世代DRM(デジタル著作権管理)システムを発表

NTTコムウェアは、デジタルコンテンツ流通ビジネスの基盤プラットフォームとして次

世代DRM(Digital Rights Management)を指向する「著作権クリアランスシステム」「動的価値制御DRMシステム」を開発したと発表した。

「著作権クリアランスシステム」は、著作権所有者と流通事業者との間の煩雑な利用許諾契約の締結を行なうシステム。

著作権の一括管理は、コンテンツIDフォーラム(cIDF)の提唱する著作権管理ガイドラインに準拠した「コンテンツID管理システム」を基盤としており、著作権所有者があらかじめ「複製権」「公衆送信権」などの権利ごとに利用料金など利用許諾条件、配信方法や期間などの利用制限をデータベースに登録、流通事業者が利用したいコンテンツを指定すれば、著作権所有者が特定され、画面に表示される利用許諾を受ける必要がある権利の一覧、またそれに伴う条件に同意し利用を申請すれば、必要となるすべての権利の利用許諾契約を締結することができる。

同時に、著作権所有者、流通事業者双方の電子署名を施した契約書作成が作成され、システムに保管・管理されます。これは、権利料徴収等に用いるデータとして利用できる。

「動的価値制御DRMシステム」は、コンテンツの内容と価格を提供時ではなくユーザーの利用時に確定させることができるシステム。

デジタルコンテンツ流通事業者などが配信する、暗号化されたコンテンツをダウンロードしたエンドユーザーが、「ダイジェスト版」「画質や音質の劣化版」「任意箇所の隠ぺい版」などに対応する専用の解読鍵を入手し、専用プレーヤーを用いてコンテンツを再生できる。

流通事業者は、利用条件を設定した各版ごとの解読鍵を販売することで、コンテンツの公開内容をコントロールできる。利用条件は、現在、画質、音質に対しまスクをかけるなどの特殊効果を組み合わせ800パターンが設定できる。

現在は専用プレーヤー方式となっているが、Windows Media Player等、広く普及しているメディアプレーヤーへのプラグイン方式も検証中としている。

NTTコムウェアでは、両システムを足がかりに、著作権所有者、著作権管理者、コンテンツ流通事業者など、コンテンツ流通ビジネス分野で広く協業パートナーを募り、著作権

保護・流通マーケットに進出していく予定としている。

(9/20)

「Yahoo! BB モバイル」ロツテリアでも試験サービスを開始

ロツテリアとソフトバンク・グループ2社(ビー・ビー・テクノロジー、ヤフー)は、ロツテリア店舗における、モバイル・ブロードバンドコミュニケーション事業「Yahoo! BB モバイル」の試験サービスを2002年9月20日から開始すると発表した。

「Yahoo! BB モバイル」は、2.4GHz帯の周波数を活用した無線LAN規格IEEE802.11bに準拠。下り最大11Mbpsの無線による高速インターネット接続を提供する。

導入されるのは東京都内のロツテリア3店舗(原宿竹下通りイースト店、原宿店、原宿竹下通り店)。年内までに東京都内の計20店舗に拡大する予定としている。

今回のロツテリア店舗へのYahoo! BB モバイル導入により、Yahoo! BB モバイルのサービス提供拠点は、111ヶ所(9月20日現在)となる。

なお、今後の展開の詳細については、本試験サービスの結果を十分に検証した上で、改めて告知するとしている。

(9/20)

クリエイティブ、携帯型HDDオーディオプレーヤーを発表

クリエイティブメディアは、HDDを内蔵した携帯音楽プレーヤー「NOMAD Jukebox Zen」を9月下旬に発売すると発表した。

「NOMAD Jukebox Zen」はMP3、WMA(Windows Media Audio)、WAVに対応。最新のWindows Media Audio 9にも対応予定で、著作権保護(DRM)付コンテンツの転送、再生にも対応している。

10GBのハードディスク搭載、USB1.1/SB1394(IEEE 1394準拠)デュアルインターフェースを採用しており、オーデ

イオデータの高速転送が可能となっている。
リチウムイオンバッテリーを内蔵し、約 12 時間の連続再生が可能。USB インターフェースからの充電も可能となっている。

ブルーLED バックライト付き液晶ディスプレイ (132 x 64 ピクセル) は日本語表示が可能。回転型コントローラーにより簡単操作を実現している。

サイズは約 75.9 x 112.6 x 24.5 mm、268g。アノード処理を施したアルミ合金をボディに採用、キャリング用のトラベルポーチが付属する。

音楽作成/再生統合ソフト「Creative PlayCenter3」が付属し、Creative AudioSync 機能により、Zen 本体とパソコンの音楽データの同期が可能となっている。

また、データ転送ソフト「FileManager」により、音楽データ以外のデータを Zen 本体に転送、データ記録媒体として使うこともできる。

対応 OS は、Microsoft Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP。

価格はオープンプライスだが、推定小売価格は 39,800 前後としている。

(9/20)

東芝、ポータブルオーディオ向け 16 ビットマイクロプロセッサを発表

東芝は、ポータブル CD やデジタルオーディオなどのポータブルオーディオ向け 16 ビットマイクロプロセッサの新製品として、業界最小の低電圧 1.8V 駆動を実現した「TMP91CW28FG」を開発したと発表した。

「TMP91CW28FG」は、低電圧駆動・低消費電力・高性能のオリジナル 16 ビット CPU コア「TLCS-900/L1」を搭載することにより、業界最小の低電圧 1.8V での駆動を可能にした。

また、ポータブル CD における音飛び防止技術 ESP (Electrical Shock Proof) に対応するため、独自の BCD (Binary Coded Decimal) 加減算回路を内蔵することで処理時間を早くしている。

電池寿命や低ノイズ対策のため、低消費電力で駆動するマイクロプロセッサへのニーズの高いポータブルオーディオ用途を想定している。

マスク ROM 版、フラッシュ ROM 版を用意しており、サンプル価格はそれぞれ 1,000 円と 3,000 円。サンプル出荷は 2003 年 3 月末から行い、2003 年 6 月から月産 30 万個規模で量産を開始する予定。

(9/19)

米 Verance、日立の SH-Mobile チップに電子透かし技術を提供

米 Verance は、日立に対して先頃特許を取得したオーディオ向け電子透かし検出技術をライセンス供与すると発表した。

具体的には、SD カードを搭載する携帯電話向けに開発された日立の 32-bit SH-Mobile プロセッサに Verance の電子透かし技術を提供する。

この技術により、ユーザーは著作権者の許諾に従って携帯電話上で音楽を録音したり再生したりすることができる。

Verance では、携帯電話や DVD Audio プレーヤーなどオーディオコンテンツを録音、保存、再生する機器の製造業者向けに、他のプラットフォーム向けにも同技術を提供していくとしている。

(9/18)

米 SONICblue、ポータブル・デジタル・ミュージックプレーヤー「Rio S10」と「Rio S30S」を発表

米 SONICblue は、ポータブル・デジタル・ミュージックプレーヤー Rio の次世代モデルとして「Rio S10」と「Rio S30S」を発表した。

「Rio S10」はフラッシュメモリを記録メディアとした Rio ファミリーの次世代モデルに当たるポータブル・デジタル・ミュージックプレーヤー。

64MB のメモリを内蔵し、MMC メモリー

カードの増設により 192MB まで拡張できる。大型のバックライト付液晶ディスプレイ、ストップウォッチ付きデジタル時計機能を搭載し、ベルトクリップ付きキャリー・ケースが付属する。

電源は単 3 アルカリ電池 1 本で、35 時間以上の連続再生を実現している。

「Rio S30S」はスポーツ愛好者向けの軽量モデル。

64MB のメモリを内蔵し、MMC メモリーカードの増設により 192MB まで拡張できる。大型のバックライト付液晶ディスプレイ、FM ラジオ、ストップウォッチ付きデジタル時計機能を搭載し、アームバンドが付属する。

電源は単 4 アルカリ電池 1 本で、15 時間以上の連続再生を実現している。

各プレーヤーとも、MP3 および WMA をサポート。これまでの Rio ファミリーのプレーヤーと同様に Windows、Macintosh の両環境に対応し、より簡単なファイル転送ソフトウェア「Rio Music Manager Software」が付属するほか、各環境に合わせた音楽管理ソフトウェアが付属する。

また、新しいオーディオフォーマットへの対応など機能の追加がソフトウェアで可能となっている。

なお、希望小売価格は「Rio S10」が \$129.99、「Rio S30S」が \$149.99。直販 EC サイトを始め北米の各小売店にて近日発売予定となっている。

(9/17)

アップル、Windows 版 iPod 3 モデルの発売日を発表

アップルは、ハードディスクを内蔵したポータブルデジタルオーディオプレーヤー「iPod for Windows」の販売を 2002 年 9 月 19 日 (木) より開始すると発表した。

メーカー希望小売価格は、5GB モデルが 36,800 円、10GB モデルが 47,800 円、20GB モデルが 59,800 円。

10GB と 20GB モデルでは、従来のスクロールホイールに替えて業界初のソリッドステート方式タッチホイールを搭載。駆動部分がないため、ほこりや汚れ、砂に強く、耐久性

が向上している。

また、新たにアップル製のキャリングケースとワイヤードリモコンも発売。10GB と 20GB モデルでは標準付属する。

ソフトウェアには、MUSICMATCH Jukebox が付属。PC につなぐだけで自動的に内容がアップデートされるというアップル独自の Auto-sync 機能もサポートしている。

発表当初、Windows 版 iPod は同 8 月下旬より発売予定とされていたが、その後延期が伝えられていた。

(9/13)

米 IBM と Philips など、セキュアなコンテンツ配信で共同研究

米 IBM、オランダの Philips Research、Telematica Instituut は、共同で家庭内のセキュアなデジタルコンテンツ配信に向けた研究プロジェクト「TIPSCI (Telematica Instituut, IBM, Philips Secure Content Initiative)」を立ち上げたと発表した。

このプロジェクトの目的は、家庭において音楽やビデオ、ゲームなどのデジタルコンテンツを、より簡単かつ安全に交換できるようにすること。その実現のためにデジタル著作権管理やサービス品質、通信速度など、そのための課題の解決にあたる。

この共同研究プロジェクトにおいて 3 社の役割はそれぞれ、Philips が DRM ソリューションや家庭用ゲートウェイ、セットトップボックス、AV 機器などに関する技術の提供、IBM が IT ネットワークやサービス事業者向けのインフラ、コンテンツ管理ソフト、デジタル音楽管理システム「EMMS」などの提供、Telematica がコンテンツ技術やパーソナライズサービス、ビジネスモデルなどに関する基礎的な科学研究機能となっている。

3 社は、2003 年 12 月までにコンシューマーサービス提供会社向けのデモンストレーションプラットフォームを開発する予定としている。

(9/12)

東芝と SanDisk、1Gbit NAND フラッシュメモリを開発

東芝は、業界最速の書き込み速度 10MB/秒を実現した業界最大容量 1Gbit NAND 型フラッシュメモリを開発したと発表した。

開発した製品は、0.13 ミクロンの微細加工技術を採用し、2 値技術を用いた NAND 型フラッシュメモリ。従来製品に比べ一度に書き込みできるページサイズを従来の 4 倍に拡張、データ入力時間を短縮できるライト・キャッシュ機能を採用し、業界最速の書き込み速度 10MB/秒を実現している。

データ蓄積用に需要が拡大しているデジタルスチルカメラや携帯情報端末、また半導体メモリを使用したオーディオ製品等の用途に向けられる。

TSOP パッケージ品「TC58NVG0S3AFT」のサンプル出荷はすでに開始しており、サンプル価格は 8,000 円。量産出荷は 2002 年末からを予定している。

また、1Gbit NAND 型フラッシュメモリを 2 個積層した 2Gbit 品についても商品化し、2002 年 10 月からサンプル出荷を開始し、2002 年末から量産開始する予定としている。

なお、東芝は 1999 年 7 月に米 SanDisk と NAND 型フラッシュメモリの共同開発について包括的提携を結んでおり、新製品はその一環として開発されたもの。量産は両社出資の製造合弁会社フラッシュビジョン（東芝四日市工場内）にて行われる。

(9/11)

米 Intel、家庭内でのデジタルメディア配信に対する取り組みを発表

米 Intel は、家庭内でのデジタルメディア配信を目指す取り組み「Extended Wireless PC Initiative」を発表した。

開発者向けに、デジタルメディア配信に関わる主要なツールキットなどを提供し、家庭内のテレビやステレオなどでパソコン用デジタルメディアを利用できる環境の開発を支援する。

この取り組みの中心となるのは、PC や TV、ステレオなどをつなぐための「デジタルメディアアダプター」と呼ばれる PC 用周辺機器。

無線 LAN 規格「802.11」や「UPnP」技術により、PC からデジタルコンテンツを受信し、標準的な AV ケーブルで TV やステレオを接続、コンテンツを再生できるようにする。ユーザーはリモコンでテレビ画面のメニューを操作し、好きなデジタルコンテンツを選択することが可能となる。

提供されるデジタルメディアアダプターのリファレンスデザインのサンプルは、Intel のマイクロアーキテクチャ「XScale」を採用した「PXA210」プロセッサをベースに、JPEG、MP3、WMA などのデジタルコンテンツをサポート。802.11b 規格の無線 LAN 機能、NTSC/PAL/S - Video のビデオ出力、AC-97 オーディオ出力を搭載する。

Intel では、2003 年下半期にはデジタルメディアアダプターが開発されるよう協力していくとしている。

(9/11)

8 月末の DSL 加入者数は 400 万弱

総務省から 2002 年 8 月末時点の DSL 加入者数の速報が発表された。それによると加入者数は 3,915,740 で、これは前月末の 8.5% 増。増加率は前月から 0.9% のマイナス。

内訳を見ると NTT 東西のフレッツ ADSL での加入者が 1,624,464、他事業者経由の DSL 加入者が残りの 2,291,276 で、NTT 東西のフレッツ ADSL のシェアは 41.5% と前月から 0.5% のマイナス。

(9/11)

米 SONICblue と Intel、携帯型エンターテインメントデバイスの開発で協力

米 SONICblue と Intel は、携帯型ビデオプレーヤー「ReplayTV PVP (Portable Video Player)」を共同で開発することで合意したと発表した。

現在開発中のこの製品は、Intel XScale テ

クノロジーベースの低消費電力かつ高パフォーマンスのプロセッサを用い、SONICblue の ReplayTV プラットフォームを組み合わせたもの。

ポケットサイズのこの製品は、SONICblue の ReplayTV から転送した TV 番組を視聴したり、パソコンから転送した動画、オーディオ、静止画を再生することができる。

Intel は XScale テクノロジーベースのプロセッサおよび Intel の Emerging Platforms Lab が開発した最先端のビデオコーデックを含む主要技術を提供する。

Intel はまた PVP のリファレンスコンポーネントを提供し、SONICblue はこれら Intel の技術に ReplayTV の製品ラインを拡張する製品として仕上げるためのデジタルエンターテインメントに関するノウハウを組み合わせる。

SONICblue の PVP は、大容量のハードディスクドライブを内蔵し、ReplayTV の独自フォーマットを含む複数のビデオフォーマットとオーディオフォーマットをサポートする。

SONICblue の ReplayTV で録画した TV 番組を直接転送し携帯デバイスで見ることができ、また、パソコンと接続し、MP3 などのマルチメディアコンテンツを転送し、再生することができる。フル充電で数時間の連続ビデオ再生ができる。

SONICblue の ReplayTV PVP は 2003 年に発表予定。

(9/10)

有線ブロード、8 月末時点の進捗を発表

有線ブロードネットワークスは、ブロードバンド事業 (FTTH ブロードバンドインターネットサービス) について、2002 年 8 月末時点の進捗状況を発表した。

これによると、Web でサービスの申込みを行なった登録数が 89,882 件、工事が確定している契約者数が 30,180 件、回線が開通している取り付け数が 16,081 件となり、取り付け数がひと月で 2,200 件弱の伸びを見せた。

そのほかの数字を 7 月末時点のものとは比べ

ると、登録数が約 5,800 件、契約者数が約 5,800 件の増加となっており、いずれも伸びが大きくなっている。

なお、契約者数について従来、集合住宅の一括契約については、契約した物件の内 6 ヶ月先までに竣工する物件までを契約者数に計上していたが、今月より 6 ヶ月以上先に竣工する物件も含め、正式契約に至っているものは全て計上している。

(9/10)

松下、半導体・受動部品を基板に内蔵した新 3 次元実装モジュールを開発

松下電器産業は、半導体と抵抗やコンデンサ等の受動部品を基板に内蔵し、多層構造を実現した小型・高機能 3 次元実装モジュール「SIMPACT」を開発したと発表した。

今回開発されたモジュールは、半導体と受動部品を多層基板の任意の層に 3 次元で内蔵できるため、高機能かつ平均して従来の 1/4 サイズという小型のモジュールを実現できる。

従来の 3 次元実装モジュールでは、受動部品が基板への薄膜プロセス等により形成され、また多層化されるため工程が複雑で、電気特性の精度に限界があった。また半導体は基板へ内蔵できなかった。

今回、セラミック粉末と熱硬化樹脂を用いたコンポジット材料により、部品を損傷なく内蔵できる新型基板と、従来の多層基板作製プロセスで、部品内蔵とインナービア接続を同時に実現する新・導電性ビアペーストにより実現された。

2004 年からの製品導入予定で、新たなモバイル機器やデジタル・ネットワーク機器の創出に貢献するとしている。

(9/10)

スピードネット、加入数が 20,000 件を突破

スピードネットは、2002 年 9 月 1 日をもって同社の 2.4GHz 帯を利用した「無線ア

ksesサービス」の加入件数が 20,000 件を突破したと発表した。

スピードネットの「無線アクセスサービス」は、電柱に張り巡らされている光ファイバー網をバックボーンとし、IEEE802.11 準拠、2.4GHz 帯の無線 LAN 技術を採用し、データ実効速度 1.5Mbps(最高)を実現する。

2001 年 5 月にさいたま市からサービスを開始、2002 年 2 月の第 5 期エリア拡大による首都圏 23 市区へのサービスインから営業・プロモーション活動を本格的にスタートした。

これに伴い、無線アクセスサービスの加入件数も急増し、今年 5 月末にはついに 10,000 件を突破、FWA (Fixed Wireless Access) を利用した無線アクセスとしては世界的にも類を見ない規模でサービス提供を行っているとしている。

スピードネットでは、サービス提供エリア内において直販営業員による訪問販売を営業活動の主体としており、この 8 月中旬以降は直販営業を 400 名体制に拡大し、10,000 加入突破からわずか 3 ヶ月余りで 20,000 加入を達成した。

なお、2002 年 9 月 30 日 (月) までの期間中に加入申込みしたユーザー全員を対象に、導入時の初期費用 12,900 円が 6,000 円割引になる「無線で 6 千円 (むせん) キャンペーン」も実施している。

(9/9)

「Yahoo! BB」会員、8 月末現在で 88.5 万人

ソフトバンクは、全額出資子会社ビー・ピー・テクノロジーがヤフーと共同で提供しているブロードバンド総合サービス「Yahoo! BB」の進捗状況を発表した。

それによると、Yahoo! BB 会員は 88 万 5000 人、前月比で 10 万 6000 人の増加。また、Yahoo! BB と同時に提供される IP 電話「BB フォン」の利用登録者数は 41 万 3000 人。

なお、7 月に統合したためたりっく通信グループのサービスの回線数は 2 万 6000 人で、

前月比 1000 人の減少。

(9/9)

NTT 東西、12Mbps メニュー「フレッツ・ADSL モア」を発表

ソ NTT 東日本および西日本は、下り最大 12Mbps の ADSL 接続サービス「フレッツ・ADSL モア」について、総務大臣に届出を行なったと発表した。

フレッツ・ADSL モアは、下り最大 12Mbps、上り最大 1Mbps の ADSL 接続サービス。NTT 収容局からの距離は従来同様 4km。

NTT 東日本では 11 月 8 日より東京都の一部地域で、NTT 西日本は 11 月 1 日より大阪府の一部地域でサービスを開始する。

月額料金は 8M タイプより 100 円高い 3200 円で、モデムレンタル料は 8M タイプと同額の 490 円。電話回線と共用しないタイプ 2 も月額料金は 8M タイプより 100 円高い 4850 円、モデムレンタル料は同額の 440 円となる。

申し込みは NTT 東西共に 9 月 10 日より受付を開始する。新規ユーザーだけでなく、すでにフレッツ・ADSL を利用しているユーザーもこの日より申し込みが可能。対応プロバイダについては、プロバイダ各社より発表が行なわれるとしている。

(9/9)

ソニー、バイオと AV 機器をネットワークでつなぐレシーバーを発表

ソニーは、バイオと AV 機器をネットワークで接続し、バイオのハードディスクにストックされたテレビ番組や音楽、静止画を、離れた場所にあるテレビやオーディオ機器で楽しむことができるレシーバー「ルームリンク (PC-NAMR1)」を発表した。

「ルームリンク」とテレビやオーディオを AV ケーブルでつなぎ、「ルームリンク」とバイオの間はネットワーク (LAN) ケーブルで接続。「ルームリンク」が中継役となり、バイオにためたテレビ番組・音楽・写真を、離

た場所のテレビやオーディオ機器で再生・表示できる。

文字が大きく、わかりやすい操作画面をテレビ側に表示。付属の専用リモコンを使って、AV 機器感覚で操作できる。

音楽については、バイオの音楽管理・再生ソフトウェア「SonicStage (ソニックステージ)」で管理されている楽曲を、ホームネットワークを通じてテレビで再生することができる。テレビ画面に一覧表示される楽曲の中から、聴きたい曲を選んですぐに再生。リモコンによる曲の頭出しや早送り/早戻しのほか、リピート再生やシャッフル再生も可能。

さらに、「ルームリンク」は光オーディオケーブルを装備しており、オーディオ機器とつなげば、さらに高音質で音楽を楽しむことができる。

再生できるファイル形式は、ATRAC3、ATRAC3plus、WAVE、MP3。なお、WMA 形式、および音楽配信サイトで購入した楽曲などの著作権情報の付加されたデータの再生はできない。

「ルームリンク」の動作対象機種は、Windows XP Professional / Windows XP Home Edition を搭載したバイオ。付属のソフトウェア「VAIO Media Ver.2.0」「VAIO Media Platform Ver.2.0」をインストールする必要がある。

2002 年 11 月上旬発売予定で価格はオープン。

(9/9)

EMD Magazine 第 25 号

発行 2002 年 10 月 17 日

発行所 音楽配信関連情報サービス

責任編集 宮腰 温

レイアウト 株式会社アイビルダース